

ドリームスエフエム放送(株) 第 132 回番組審議会議事録

1 開催日時

令和8年2月24日(火)

2 開催場所

福岡県久留米市中央町 35-20 ドリームスエフエム放送株式会社 本社

3 出席委員

審議委員:田中 優子、堺 太一郎、入江 剛史、神代 英子、杉山 宗一郎

放送事業者側:内藤 圭祐

4 議題

番組名:「まちに夢をひろげようプロジェクト 同窓会声かけラジオ」(生放送)

放送日:下記のとおり

令和7年11月12日 令和 7 年度 南筑高等学校大同窓会

令和7年11月19日 久留米高校平成 2 年卒学年同窓会

パーソナリティ:中村 美由紀

5 番組内容

当社が掲げるスローガン「まちに夢をひろげよう」を実現するプロジェクトの一環として開局20年となった2018年より行っている地元同窓会の開催応援企画。筑後・鳥栖地区で開かれる幼稚園・保育園から大学・短大までの同窓会を生放送番組内に出演し、無料で告知でき、これまで約40の同窓会実行委員がスタジオで生出演してきた。放送時間は不定期で、申し込みがあった同窓会実行委員と出演日時を調整し、実行委員が地元OB・OGに参加を呼びかける。コロナ禍の2020年～2023年までは同窓会の開催が少ない状況だったが、2023年後半からは徐々に増え、生放送での告知依頼も増えた。番組には同窓会実行委員が出演し、学校の紹介や学生時代の思い出を語ってもらい、最後に校歌を流す。放送後に申し込みがあったという声もあり、毎年実行委員が出演する学校もある。

6 審議内容

番組を聴取いただき、下記のような感想・意見を述べていただきました。

(委員意見)

- ① 「まちに夢をひろげよう」のスローガンを実現するプロジェクトの一環として、地域に密着した、住民のための良い番組だと思った。
- ② 1つ目の令和7年度南筑高校大同窓会の回では、告知に来た矢野さんの軽快なしゃべりをパーソナリティがうまくつなげていた。2つ目の久留米高校平成2年卒学年同窓会の回では、初めに久留米高校の学びの特徴もあり、関係者でなくても興味を持って聞くことができる構成となっていた。審議対象となっていた2校とも創立から103年、117年と歴史が長いことも印象に残った。
- ③ 卒業生の話の際「～ちゃん、～くん」と呼んでいたのがジェンダー平等の観点から少し気になったが「同窓会声かけラジオ」の趣旨から考えると訂正してしまうのも、よくない気がした。
- ④ 単に告知だけではなく、学校の紹介や出演者の思い出話が入ることで、その学校を卒業した人以外も興味が湧くような話になっていた。
- ⑤ 出演の最後に校歌が流れるのも同窓会の紹介らしく親近感が持てた。
- ⑥ 同窓会の告知をすることで卒業生が聞いて参加の申し込み繋がるというだけでなく、学校の紹介や開催されるホテルなどの会場の紹介にもなっているのではないかと思った。
- ⑦ 実行委員が1人で出演するのと、複数で出演するのでは聞こえ方が違った。複数の方が明朗で楽しそうに聞こえたので、告知は複数人で出演した方が良い。
- ⑧ 会話の後ろで流れている音楽に耳を持っていかれたので、BGM はなくてもいいのではないか。
- ⑨ 冒頭のチャイム音から「起立・礼・着席」という声が入り、学校の話に入っていくため同窓会の紹介という一貫性が番組に感じられた。
- ⑩ トークの中で「35年前、修学旅行の新幹線に乗り遅れたことが地元のニュースになった」というエピソードが大変だっただろうけど、くすっと笑えるものだった。
- ⑪ 学校内で合宿をしたエピソードなど、時代を感じるものが多く、その学校の卒業生でなくても共感できるような体験談が多かった。

- ⑫ 日中の勤務時間帯と被って、スタジオで生出演できない人がいたら、会合を行っているところへ出向いて録音し、放送するのもいいのではないかと。
- ⑬ 同窓会に出演する現役生徒にも出演してもらって声を流すのもいいのではないかと考えた。
- ⑭ ターゲットという観点では、リスナーの中で当該学校の卒業生に届くよう告知するというニッチさが気になった。きちんと届くために出演者側からと局側の双方でSNSやグループ内の拡散など、届く方法を考えた方が良さそう。
- ⑮ ニュースにならないような話でも、生活目線・市民目線で面白いと感じるところがあった。このような地元密着の企画は今後も継続して広がっていくとよいと思う。

7 審議機関の答申又は意見の概要の公表
自社ホームページへ掲載

8 次回の審議委員会は、令和8年10月下旬に行う予定